

2019年3月期 第2四半期
決算説明会資料

2018年11月8日



- ✓ スライドを用いて項目ごとにご説明します
- ✓ なお、基本的に連結ベースでの説明です

主要数値の実績と予想

〔連結〕

- ✓ 第2四半期は概ね当初予想とおりに進捗し、対前年度で増収
- ✓ 各段階利益は最高益を記録した前期から減益となるも、高水準の利益を確保

	FY2017 2Q	FY2018 2Q	前年度		FY2018通期	前年度	当初予想
	実績	実績	差		修正予想	差	差
受注高	7,618	5,724	▲1,894		16,300	▲1,135	+100
売上高	6,854	7,047	+193		16,100	+245	+200
売上総利益	1,030	896	▲134		2,240	▲426	+60
	15.0%	12.7%	▲2.3Pt		13.9%	▲2.9Pt	+0.2Pt
営業利益	632	480	▲152		1,370	▲449	+60
	9.2%	6.8%	▲2.4Pt		8.5%	▲3.0Pt	+0.3Pt
経常利益	647	503	▲144		1,390	▲463	+60
	9.4%	7.1%	▲2.3Pt		8.6%	▲3.1Pt	+0.2Pt
親会社株主に帰属 する四半期純利益	442	352	▲90		960	▲308	+50
	6.4%	5.0%	▲1.4Pt		6.0%	▲2.0Pt	+0.3Pt
1株当たり 四半期純利益(円)※	194.14	158.90	▲35.24		436.55	▲124.81	+21.50
ROE	-	-	-		13.9%	▲6.6Pt	+0.5Pt

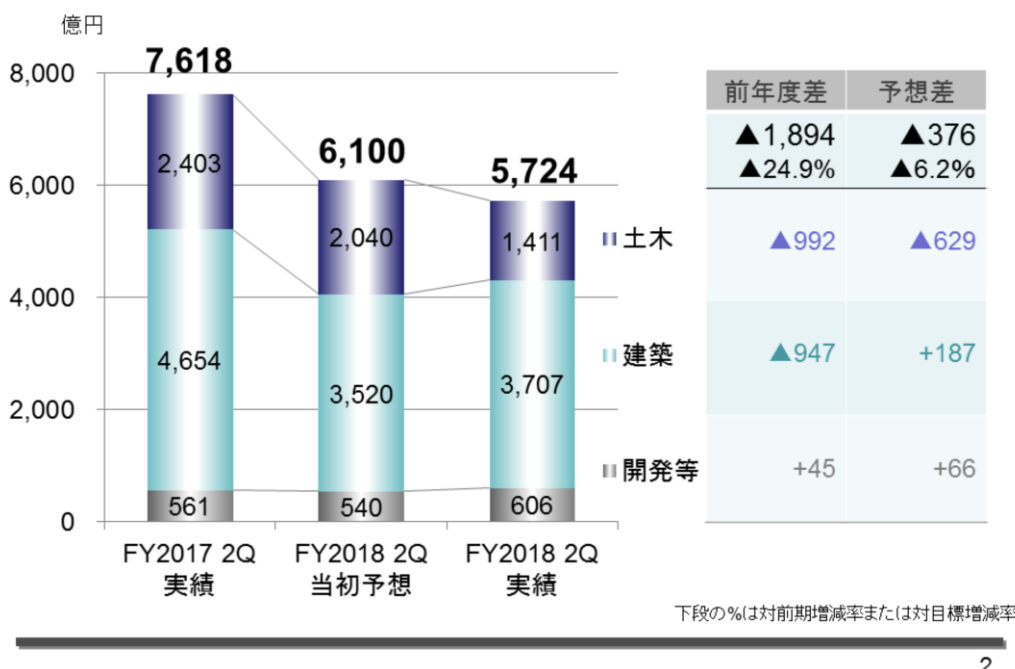
※2017年10月1日付で当社株式5株につき1株の割合で株式併合を実施したため、2017年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定している

1

- ✓ 当期業績の概要ですが、当第2四半期の業績は前年度の実績に対し、受注高は減少しましたが、期首手持ち工事の増加を背景に増収となりました
- ✓ 各利益項目はいずれも、最高益を更新した前年度との比較では減益ですが、概ね一昨年度の水準となり、高水準を確保いたしました
- ✓ 通期予想は、当初の予想に対し、受注高・売上高の増加に加え、利益率の改善を見込み、各利益項目を上方修正いたしました
- ✓ ROEは純利益の上方修正に伴い、0.5ポイント改善の13.9%を見込んでおります

受注高

2018年度第2四半期実績
〔連結〕



- ✓ 受注高は5,724億円となり、対前年度で▲1,894億円の減少、対予想では▲376の未達となりました
- ✓ 土木は、官庁および民間工事で共に、前上期に見られた大型案件が少なく、対前年度で▲992億円の減少となりました
- ✓ 対予想では、海外大型案件の発注時期が後ズレしたことなどにより、▲629億円の未達となりました
- ✓ 建築は、首都圏の再開発案件や製造業からの受注が堅調に推移したことから予想を187億円上回りましたが、前上期に見られた大型の注力案件が、今期は下期に偏っていることから、対前年度では▲947億円の減少となりました

〔参考〕当第2四半期累計期間の主な受注工事〔土木〕

〔単体〕

官 民	工事名称	発注者
官	成瀬ダム原石山採取工事(第1期)	国土交通省 東北地方整備局
民	北陸幹舞崎Bi新設他工事	西日本旅客鉄道株式会社
民	神戸発電所第3号、第4号(仮称)貯炭サイロ基礎工事	株式会社神戸製鋼所
官	那賀川(一期)農地防災事業 南岸堰補修(第二期)建設工事	農林水産省 中国四国農政局
官	平成30年度(平成29年度繰越)飯館村仮置場復旧等工事	環境省

官：官庁
民：民間

3

- ✓ 単体の主な受注工事ですが、土木工事はご覧の通りです
- ✓ なお、発注者の都合などにより、上記に掲載していない主な受注工事としては、民間不動産業による土地造成工事や、民間電気業による発電施設関連工事がありました

〔参考〕当第2四半期累計期間の主な受注工事〔建築〕

〔単体〕

官 民	工事名称	発注者
民	東京エレクトロンテクノロジーソリューションズ 東北事業所新棟新築工事	東京エレクトロンテクノロジー ソリューションズ株式会社
民	千葉銀行本部棟建替え計画	株式会社千葉銀行
民	ハーモニック・ドライブ・システムズ有明工場新工場 新築工事	株式会社ハーモニック・ドライ ブ・システムズ
民	大手町ビル大規模リノベーション工事 (外装改修工事2F以上)	三菱地所株式会社
民	味の素株式会社(仮称)東海事業所新工場建設工事	味の素エンジニアリング株式 会社

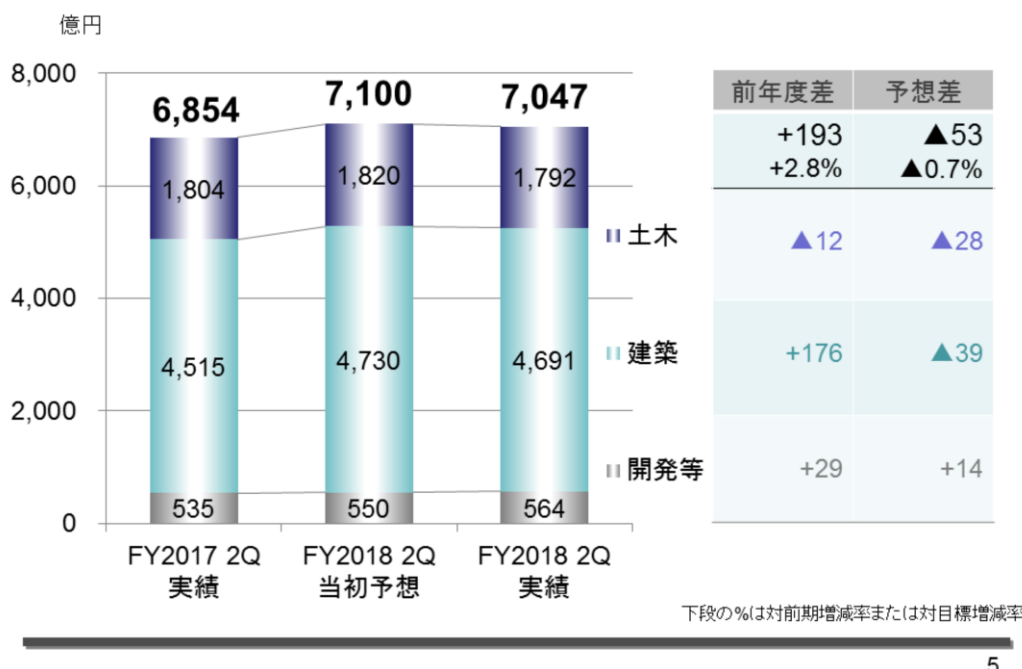
官：官庁
民：民間

✓ 建築工事をご覧の通りです

✓ なお、発注者の都合などにより、上記に掲載していない主な受注工事としては、民間サービス業(市街地再開発組合)による事務所等新築工事がありました

売上高

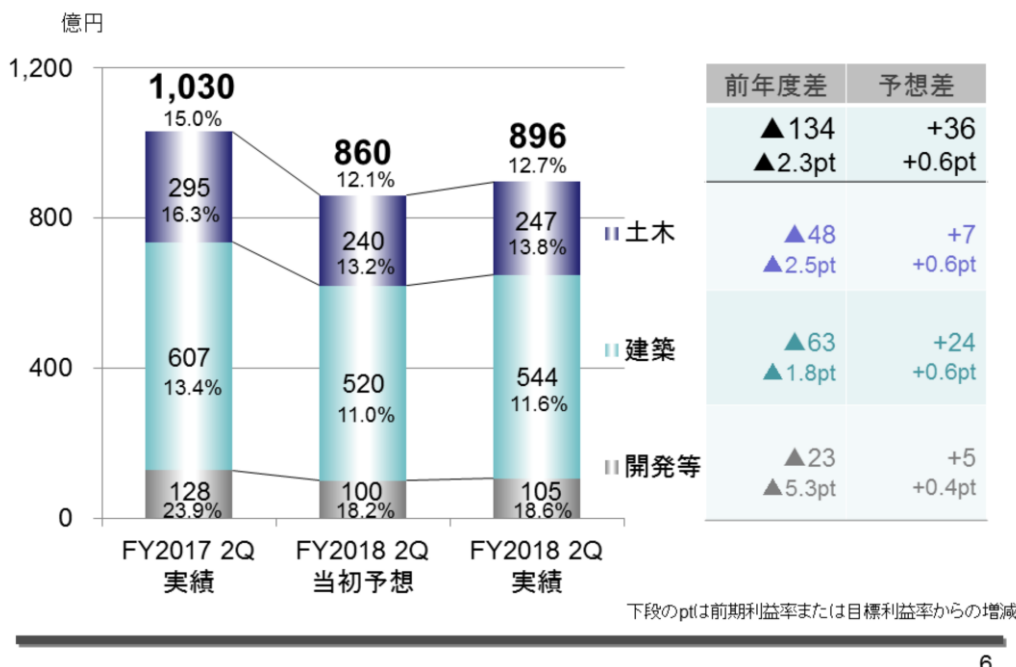
2018年度第2四半期実績
〔連結〕



- ✓ 売上高は概ね予想とおりの7,047億円となり、対前年度では期首手持ち工事の増加を背景に増収となりました

売上総利益

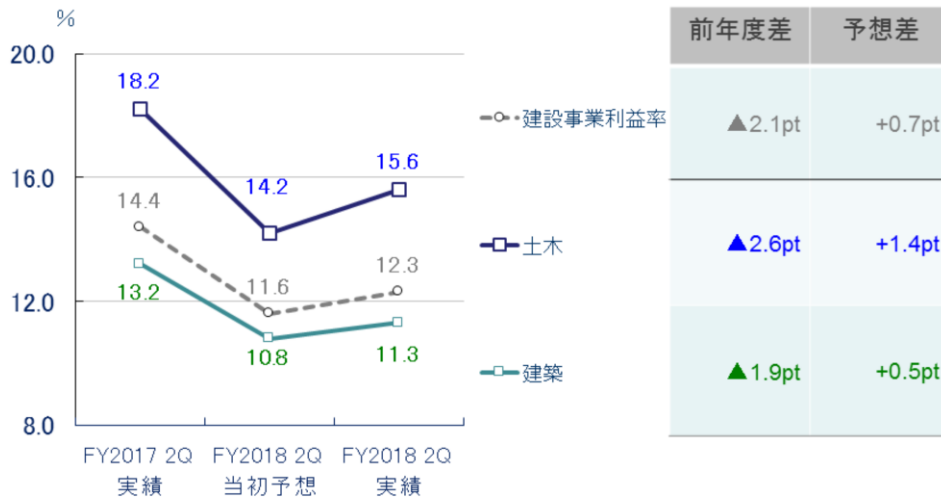
2018年度第2四半期実績
〔連結〕



- ✓ 売上総利益は896億円となり、前年度からは▲134億円の減益となりましたが、予想からは36億円の好転となりました
- ✓ 対前年度減益は、前年度に最終決算を迎える大型工事の追加獲得などが多くあった反動によるものです
- ✓ 対予想は、単体は28億円の好転で、土木・建築とも追加工事の獲得や原価低減などによる利益率の好転によるものです
(土木+11億円、建築+11億円、開発等+6億円)
- ✓ 子会社等でも建築を中心に、予想から総額で8億円好転しました
(土木▲4億円、建築+13億円、開発等▲1億円)

〔参考〕 単体・完成工事利益率

2018年度第2四半期実績
〔単体〕

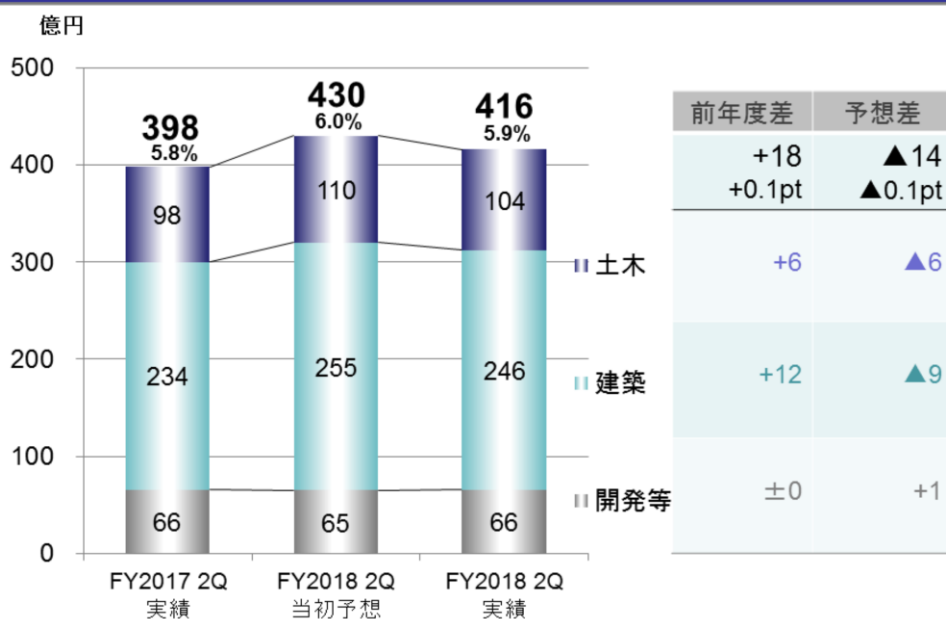


7

- ✓ 単体の完成工事利益率は12.3%となり、目標を0.7ポイント上回りました
- ✓ 土木は1.4ポイント好転の15.6%、建築は0.5ポイント好転の11.3%となりました

販管費

2018年度第2四半期実績
〔連結〕

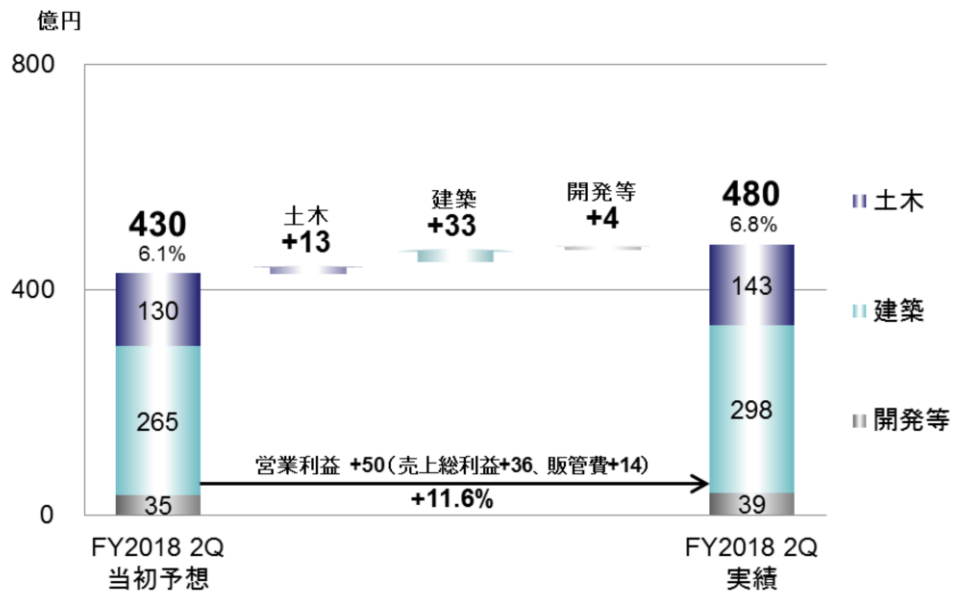


8

- ✓ 販管費は416億円となり、予想より14億円減少となりました
- ✓ 当社単体及び大成有楽不動産で減少しております

営業利益 ー増減分析（対予想）ー

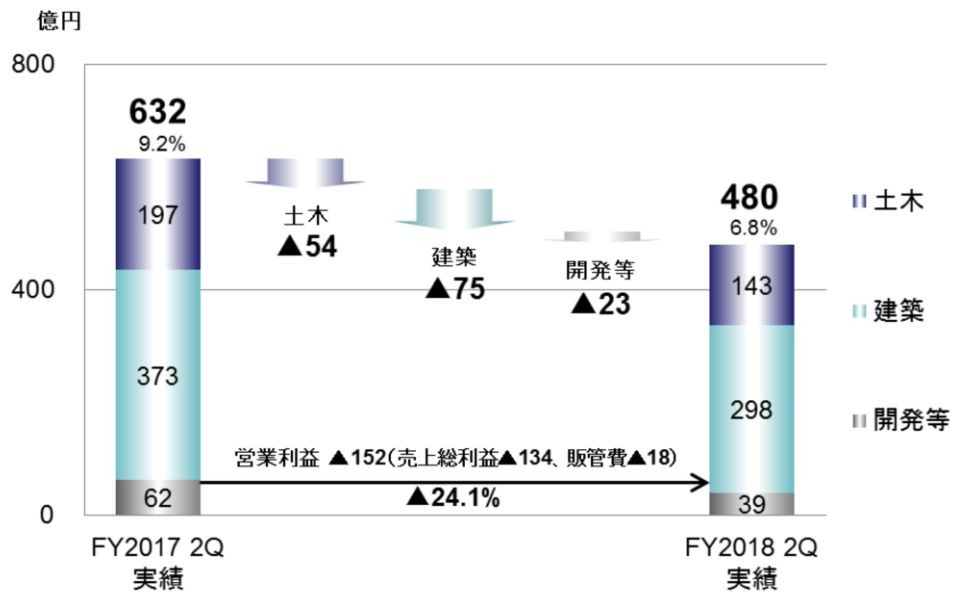
2018年度第2四半期実績
〔連結〕



- ✓ 営業利益は、売上総利益の36億円好転および販管費14億円の減少により、予想から50億円好転の480億円となりました

営業利益 ー増減分析（対前期）ー

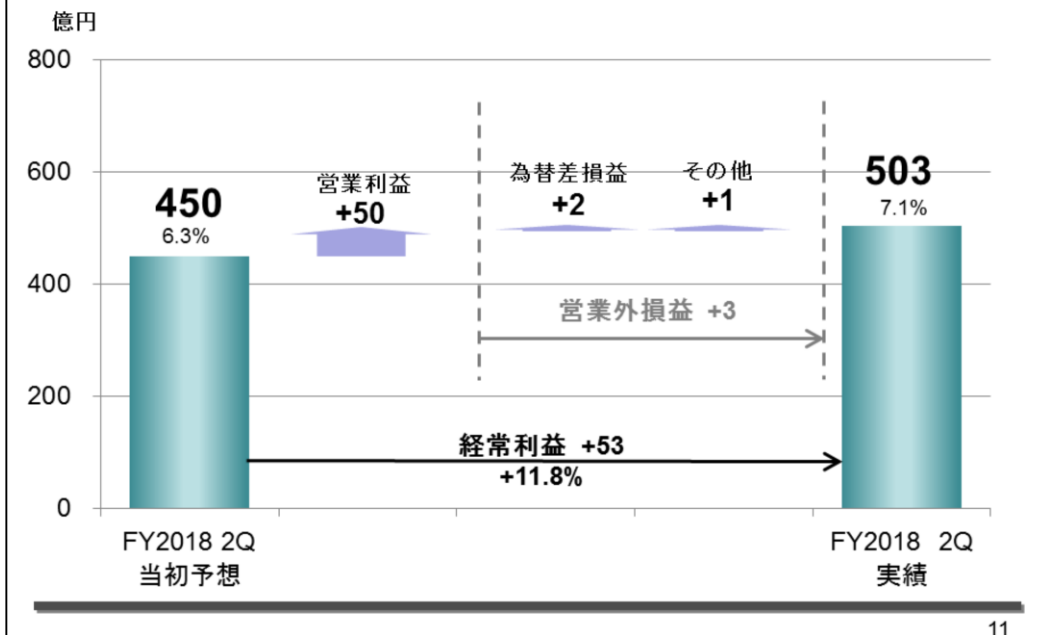
2018年度第2四半期実績
〔連結〕



- ✓ 対前年度では、売上総利益が▲134億円の減益、販管費も▲18億円悪化したため、▲152億円の減益となりました

経常利益 ー増減分析（対予想）ー

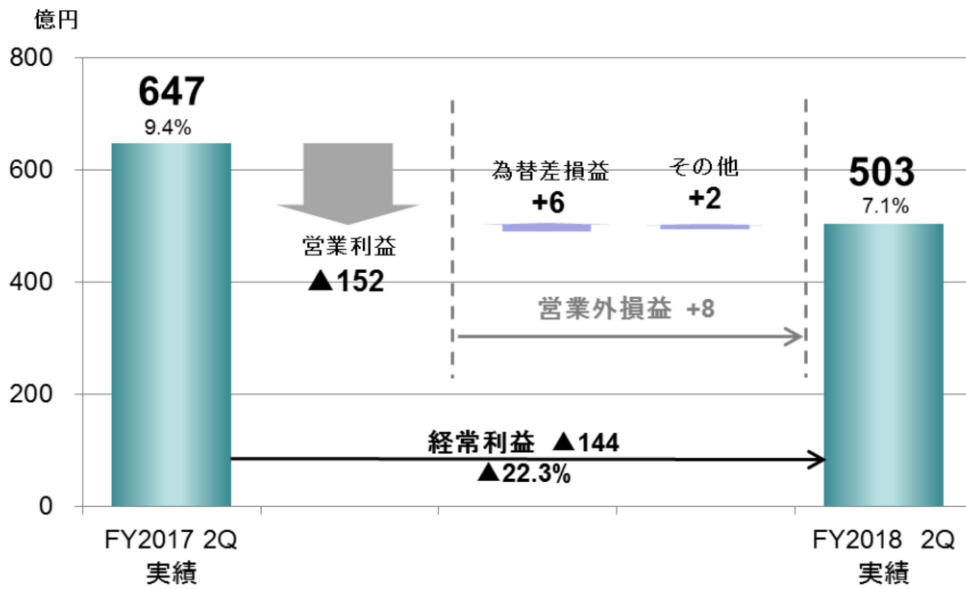
2018年度第2四半期実績
〔連結〕



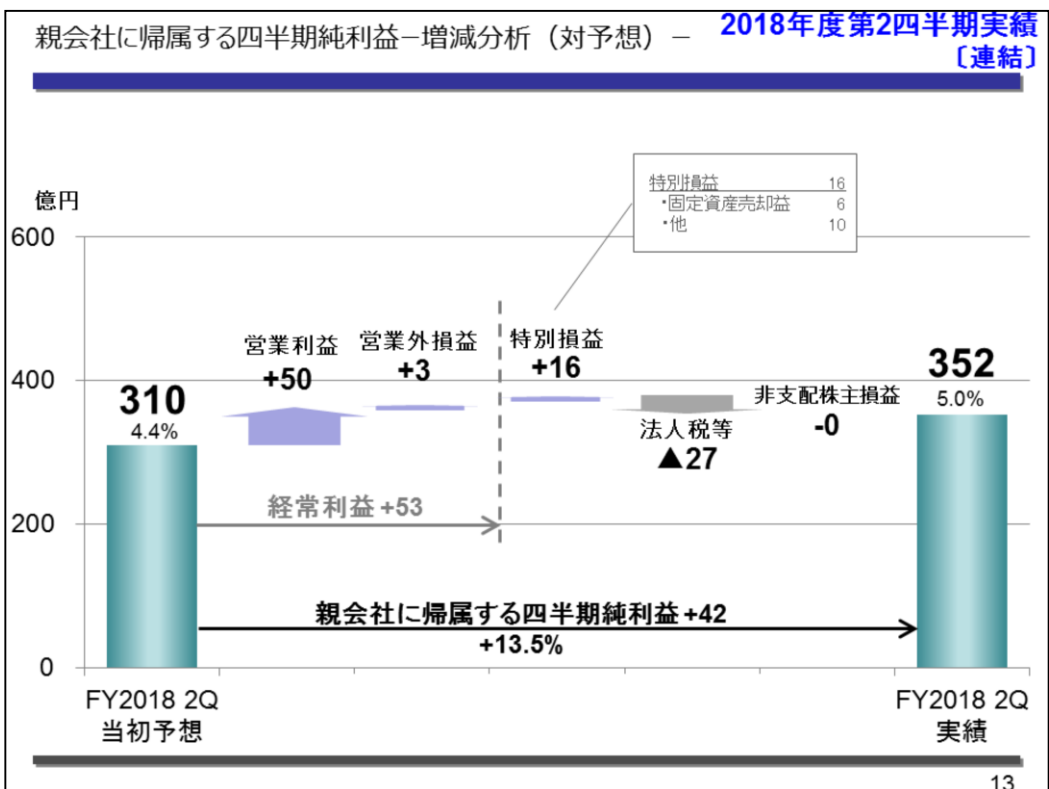
- ✓ 経常利益は、営業利益50億円の好転に、営業外損益3億円の好転を反映し、予想から53億円好転の503億円となりました
- ✓ なお、営業外損益は、円安に伴い為替差益が2億円発生しております

経常利益 ー増減分析（対前期）ー

2018年度第2四半期実績
〔連結〕

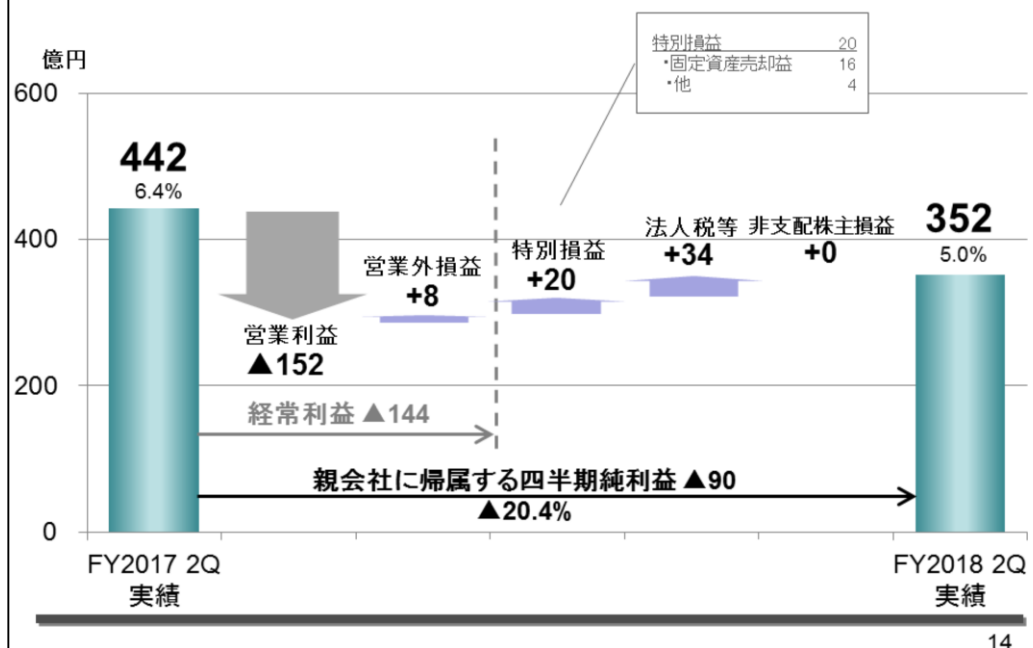


- ✓ 対前年度では、営業利益▲152億円の減益に、営業外損益8億円の好転を反映し、▲144億円の減益となりました

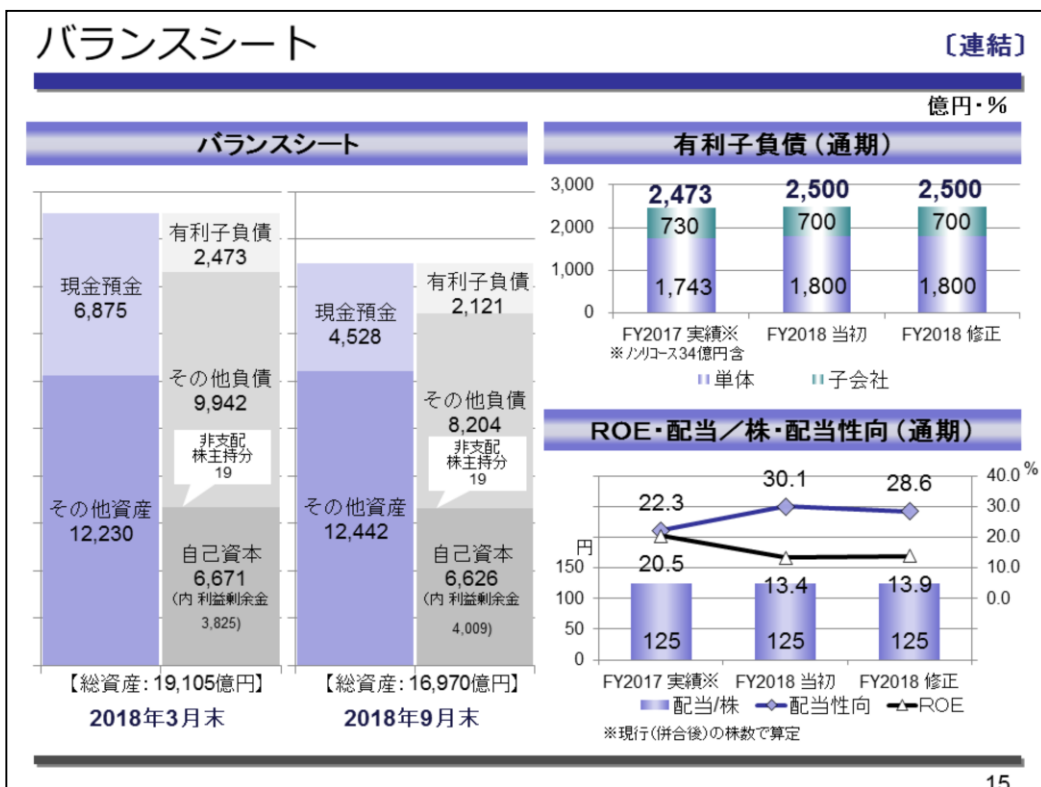


- ✓ 四半期純利益は、主に営業利益の好転により、予想から42億円好転の352億円となりました
- ✓ 固定資産売却益の増加などにより特別損益は16億円の好転（予想0→発生16）となりましたが、税引前当期純利益69億円の好転に伴う法人税等の負担が増加しました

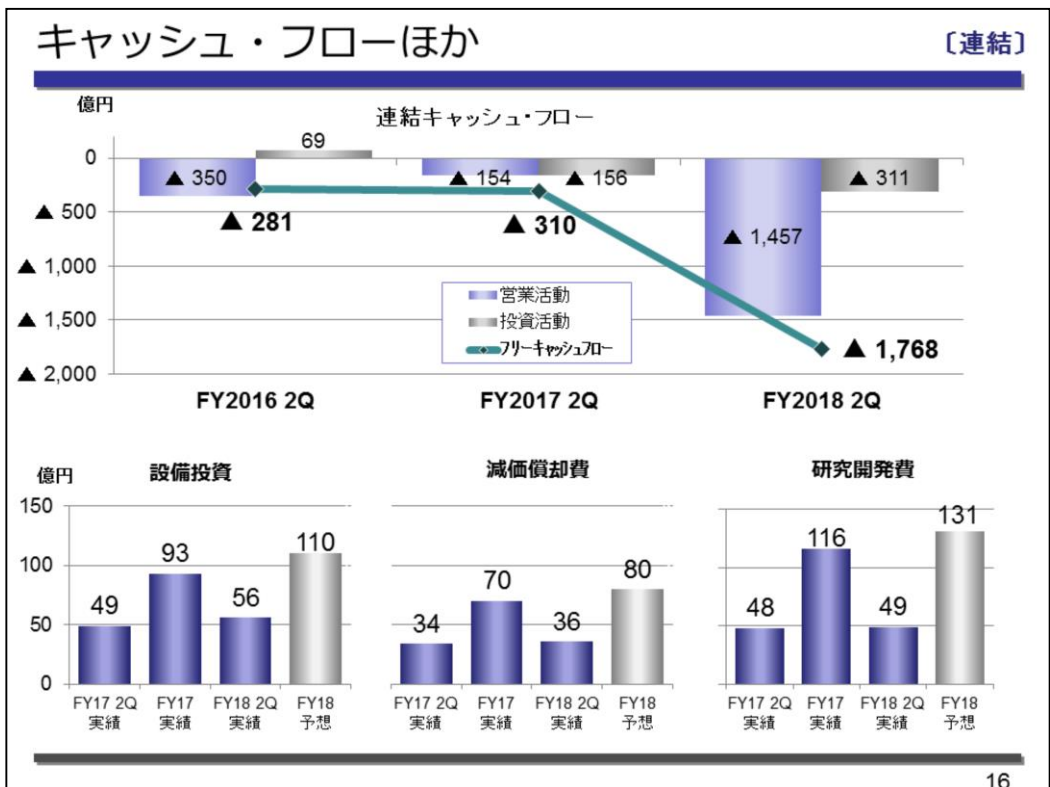
親会社に帰属する四半期純利益—増減分析（対前期）— **2018年度第2四半期実績**
〔連結〕



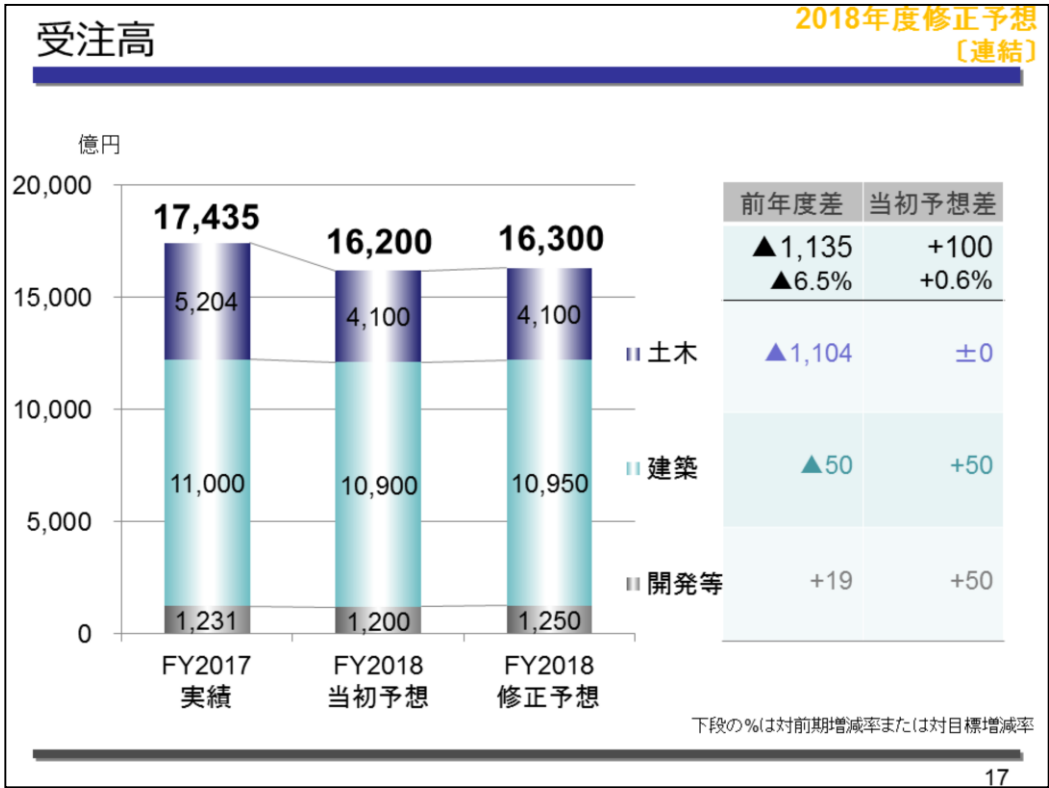
- ✓ 対前年度では、主に営業減益により、▲90億円の減益となりました
- ✓ 前年度の特別損益は減損損失等によるネット▲4億円の損でしたので、特別損益は前年度から20億円好転しました（前年度▲4→今年度16）



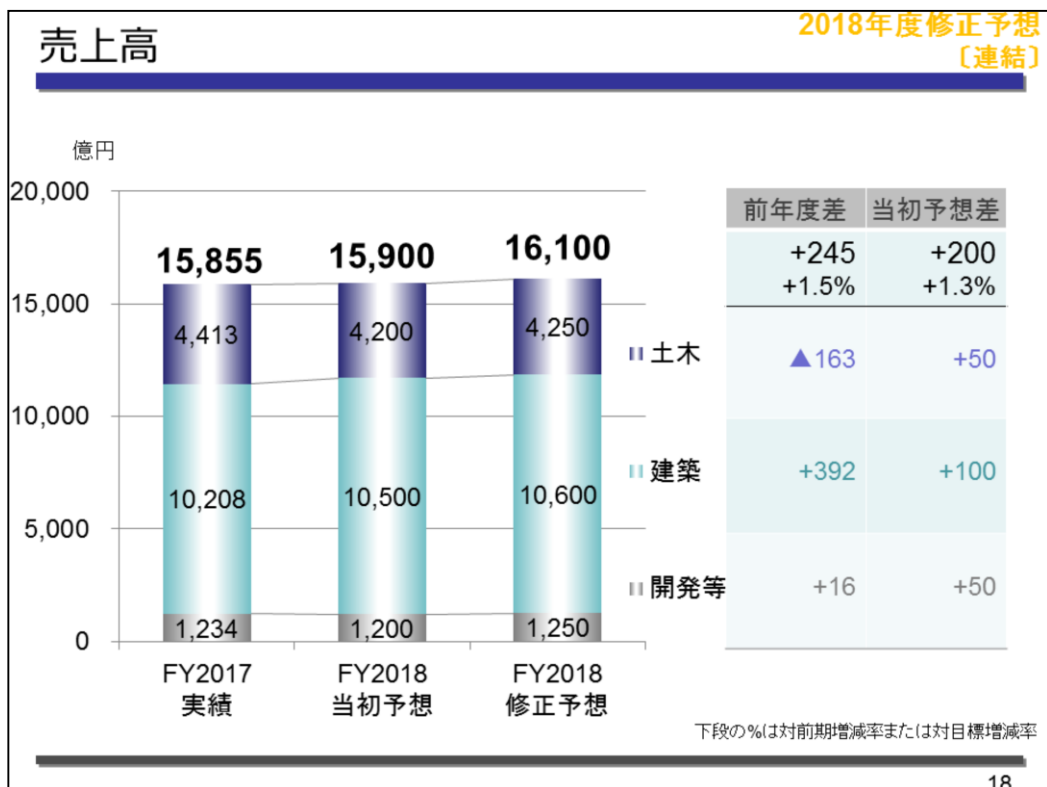
- ✓ 上期末の連結総資産は前期末から▲2,135億円減少し、1兆6,970億円となりました
- ✓ 有利子負債は、前年度末から▲352億円減少し、2,121億円となりました
- ✓ 自己資本は、自己株式の取得により前年度末から360億円減少しましたが、利益剰余金が四半期純利益の計上などに伴い184億円の増加、また保有株式の時価上昇に伴う「その他有価証券評価差額金」128億円の増加などにより、全体で前年度末から▲45億円減少の6,626億円となりました
- ✓ 期末の有利子負債は当初目標通りの2,500億円を予定しております
- ✓ 今回修正した通期の当期純利益を反映させ、ROEは13.9%、配当性向は28.6%となります



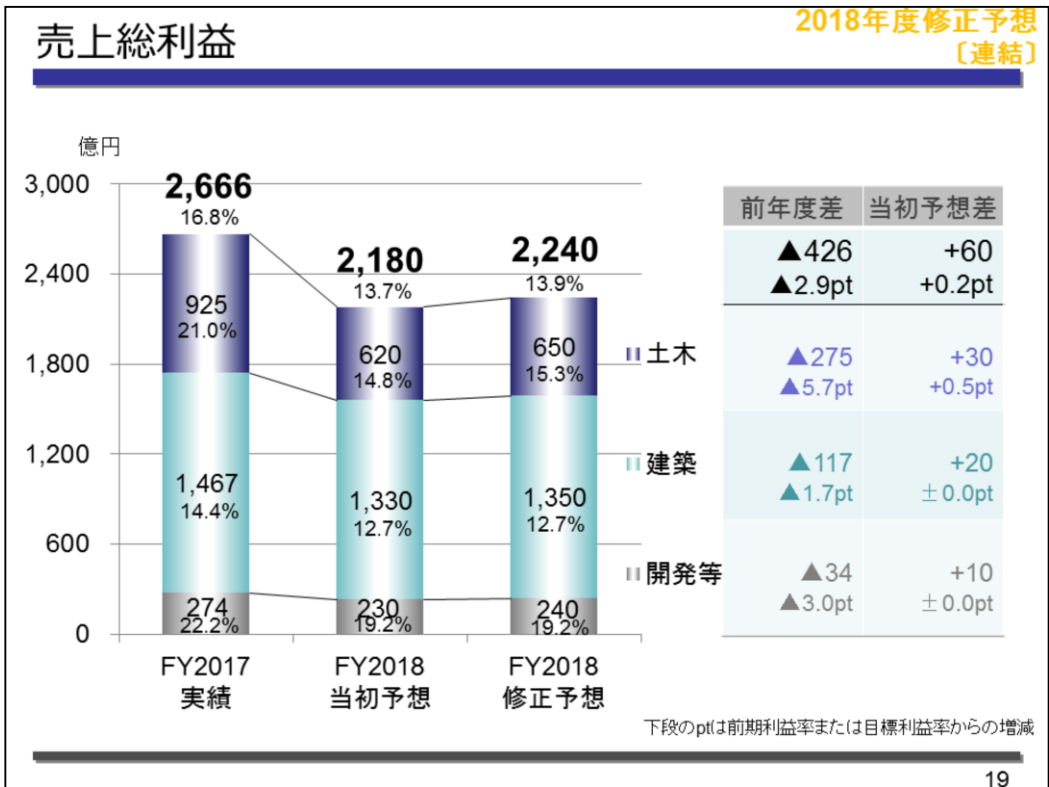
- ✓ 連結キャッシュ・フローは、第2四半期は例年、工事関係収支が支払超過となりマイナスとなる傾向にあります
- ✓ 当第2四半期の営業キャッシュ・フローには、専門工事業者への支払手形サイトを従前の90日から60日へ一律変更した影響が▲346億円含まれています



- ✓ 受注高は1兆6,300億円と、当初予想から100億の増加を見込みます
- ✓ 建築・開発等とも主に子会社の増加によるものです



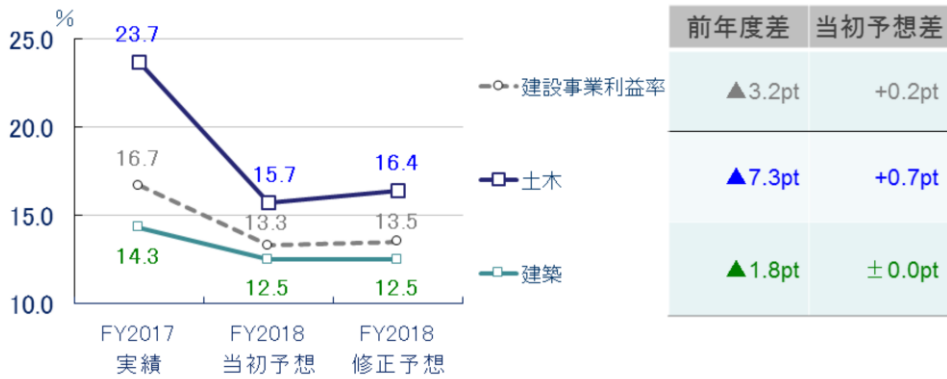
- ✓ 売上高は1兆6,100億円と、当初予想を200億円上方修正いたしました
- ✓ 単体、子会社ともに増加、また全てのセグメントにおいて増加を見込みます



- ✓ 売上総利益は2,240億円と、当初予想を60億円上方修正しました
- ✓ 土木は増収に加え利益率の改善(+0.5ポイント)により30億円の好転を見込みます
- ✓ 建築・開発等は増収に伴い、それぞれ20億円、10億円の好転を見込みます
- ✓ 対前年度減益は、主に、土木、建築ともに前年度に最終決算を迎える大型工事の追加獲得などが多くあった反動による、利益率の低下によるものです

〔参考〕 単体・完成工事利益率

2018年度修正予想
〔単体〕

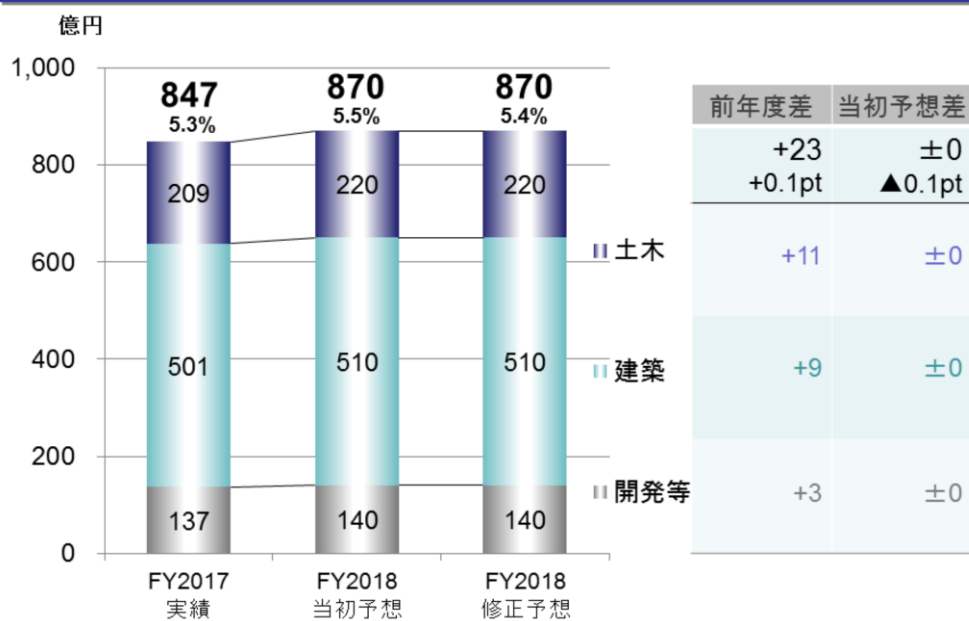


20

- ✓ 単体の完成工事利益率は13.5%となり、当初予想から0.2ポイント好転を見込みます
- ✓ 土木は0.7ポイント好転の16.4%、建築は当初予想と同じ12.5%を見込みます

販管費

2018年度修正予想
〔連結〕

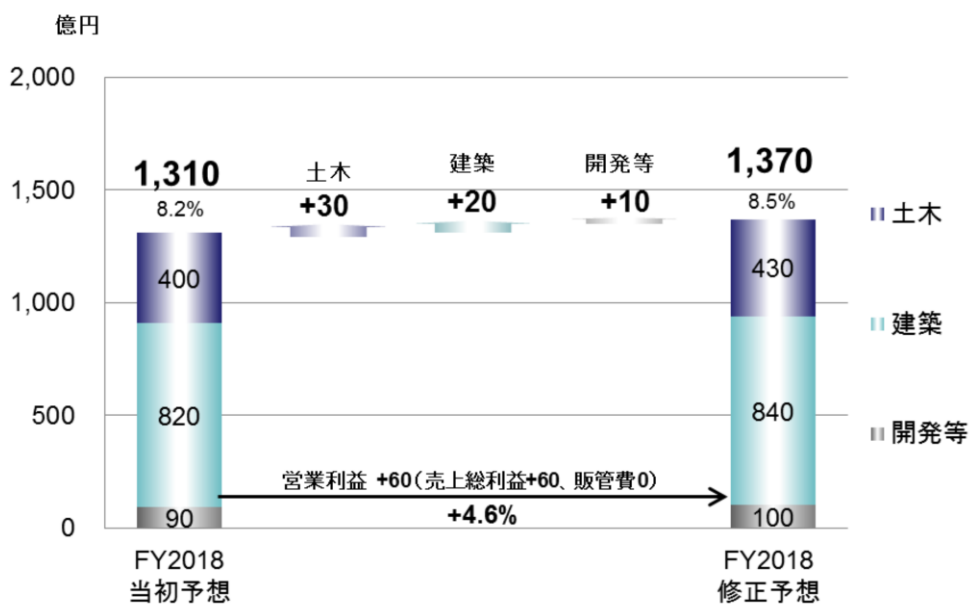


21

- ✓ 販管費は870億円と、当初予想を据え置きました

営業利益 ー増減分析（対予想）ー

2018年度修正予想
〔連結〕

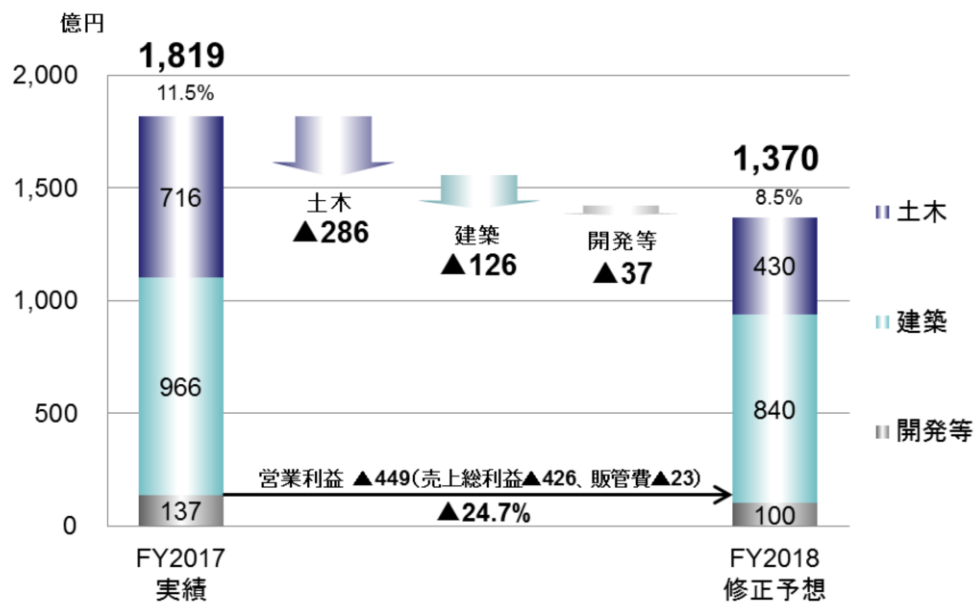


22

- ✓ 営業利益は、売上総利益の好転により、当初予想から60億円好転の1,370億円を見込みます

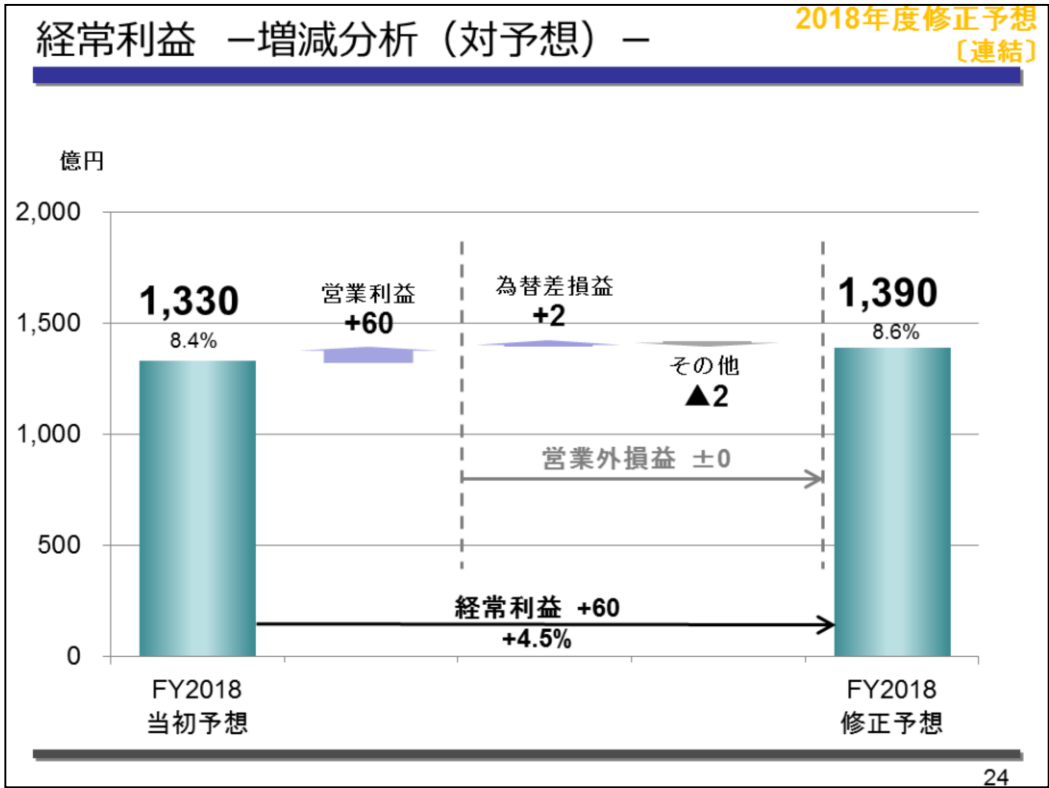
営業利益 ー増減分析（対前期）ー

2018年度修正予想
〔連結〕

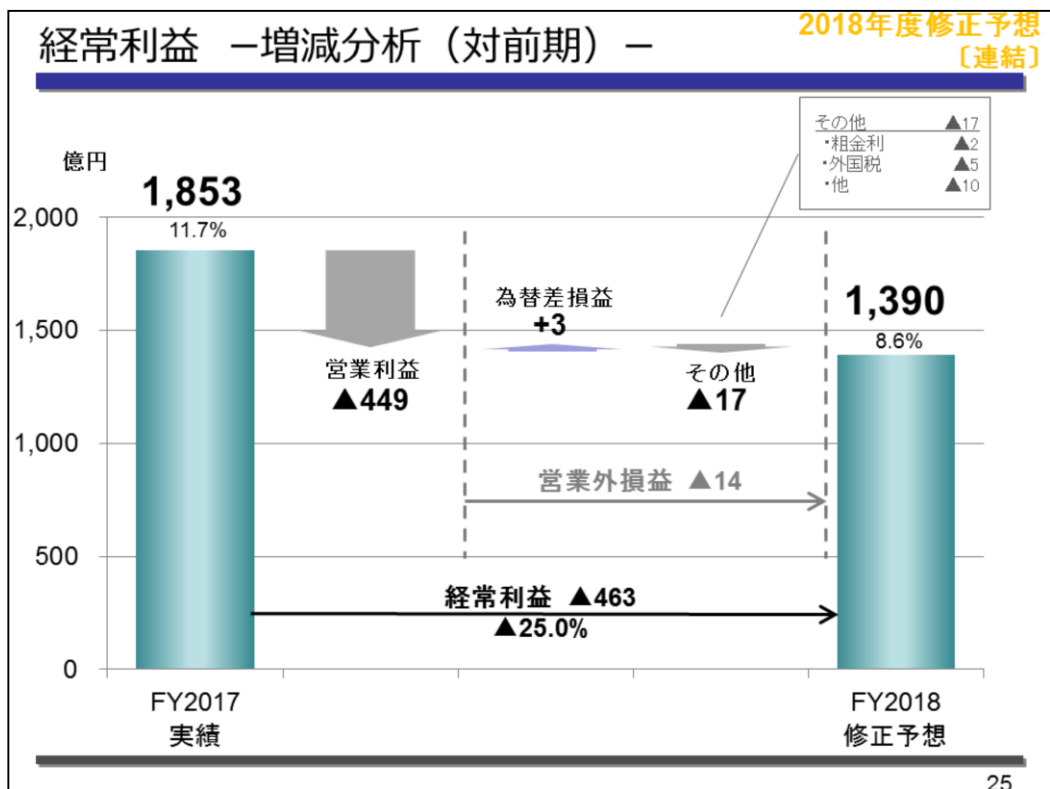


23

- ✓ 対前年度では、土木・建築・開発ともに、主に利益率の低下により、それぞれ ▲286億円、▲126億円、▲37億円の減益を見込みます

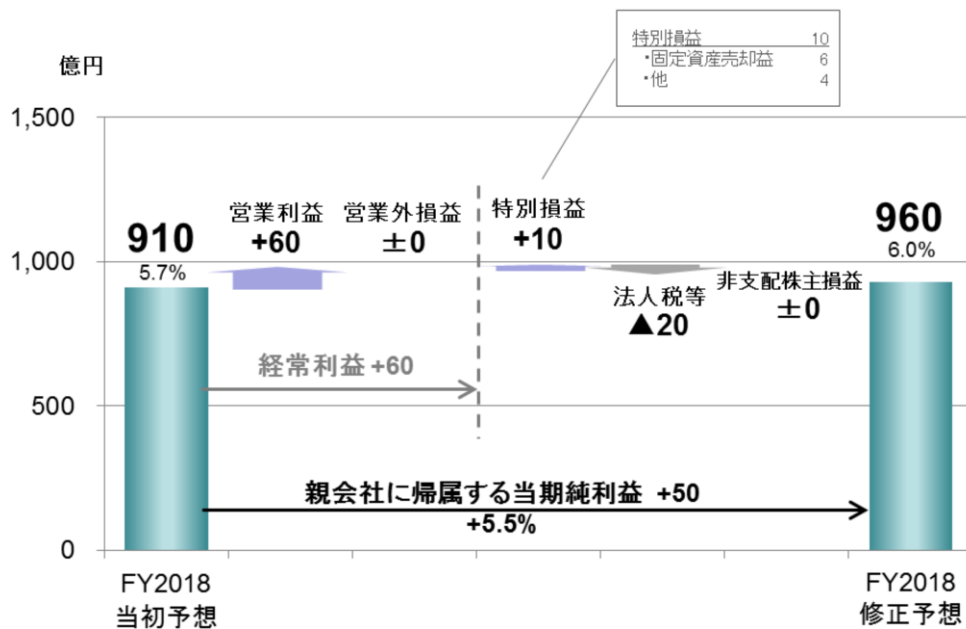


- ✓ 経常利益は、営業利益の好転により、当初予想から60億円好転の1,390億円を見込みます



- ✓ 対前年度では、営業利益▲449億円の減益に、営業外損益▲14億円の悪化を反映し、▲463億円の減益を見込みます

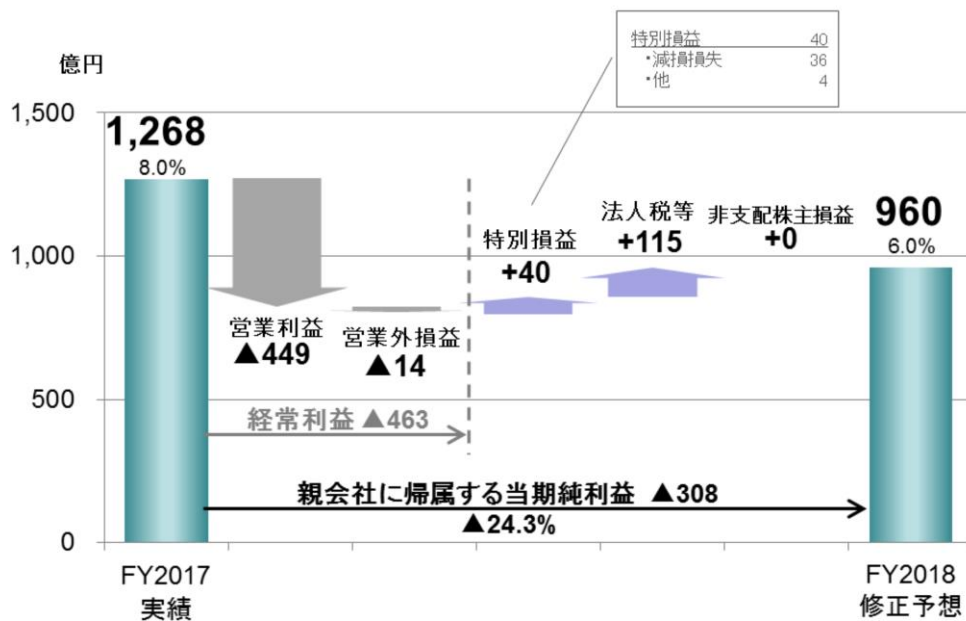
親会社に帰属する当期純利益 ー増減分析（対予想）ー **2018年度修正予想**
【連結】



26

- ✓ 当期純利益は、主に営業利益の好転により、当初予想から50億円好転の960億円を見込みます
- ✓ 特別損益は、上期実績を踏まえ、10億円の利益を見込んでいます

親会社に帰属する当期純利益 ー増減分析（対前期）ー **2018年度修正予想**
【連結】



27

- ✓ 対前年度では、主に営業減益により、▲308億円の減益を見込みます
- ✓ 特別損益は、前期に主に子会社で減損損失を計上した反動で40億円の好転を見込んでいます(前年度▲30→今年度10)